

甲賀売薬の製造・販売用具

令和5年(2023年)1月21日(土)～9月30日(土)

入館料無料



甲賀市
くすり学習館

[illegible]

-

- 電車をご利用の方
- ※JR 東海道本線(琵琶湖線)草津駅乗り換え、JR 草津線甲賀駅・油日駅で下車、徒歩約20分
 - ※JR 関西本線柘植駅乗り換え JR 草津線油日駅・甲賀駅で下車、徒歩約20分

CONTENTS

もっとわかるよ“甲賀の薬” 『甲賀・日野製薬編』

制作：滋賀県中小企業団体中央会



／約10分動画で／

動画はこちらから▶



EVENT

国登録有形民俗文化財・ 登録記念企画展

「甲賀売薬の製造・販売用具」 を開催中!

- **場所** 甲賀市くすり学習館
- **会期** 9月30日(土)まで
- **時間** 9時30分～17時 月曜休館
(祝日の場合は翌日)
- 【サテライト展示】
- **場所** 市役所1階展示スペース
- **期間** 2月28日(火)まで
8時30分～17時15分

◆登録記念講演会 「甲賀売薬の製造・ 販売用具の登録によせて」

- **講師** 文化庁文化財調査官
加藤 基樹氏
- **日時** 2月11日(土) 13時～
- **会場** あいこうか市民ホール

※入場無料・申し込み不要

甲賀市くすり学習館
(甲賀町大原中898-1)



滋賀県薬業協会・ 甲賀のくすりコンソーシアム

会長

おおきた まさと
大北 正人さん



薬のまちで “平均寿命世界一”

毎日歩いて会社に出勤することが私自身▲
の健康の秘訣ですね」と話す大北会長

滋賀県の医薬品生産金額は全国で5.7%を占め、富山県に次いで全国5位となっています。甲賀市では、合併前の甲賀町が古くから薬のまちとして発展してきました。こうした地場産業をさらに伸ばしていくためには、例えば神戸ポートアイランドのように一定の地域に医療産業を集積することで研究所や医療用薬品などの製薬関係事業者が集まり、さらなる発展が期待できます。

最新の発表では滋賀県の平均寿命は、男性が全国1位、女性が全国2位と非常に高く、世界的に見ても日本は上位にあることから、甲賀市が県内でトップになることができれば世界一になることも決して夢ではありません。薬の上手な付き合い方や薬の役割を広く知っていたいただき、薬をいかした甲賀市にしかできないまちづくりに向け、取り組みたいと思います。



◆甲賀売薬の製造と販売の用具

甲賀市くすり学習館には、多くの市民の方から寄贈いただいたくすりの製造と販売の用具が展示されています。その内、2,488点の用具が令和5年1月20日、国の文化審議会の答申により、交易の歴史を知る上で大変貴重であると評価され、国の登録有形民俗文化財に登録されるはこびとなりました。これらの用具はこの地で育まれた生業と暮らしの証といえるもので、研究を重ねて薬を作り、日本各地を売り歩いた甲賀の先人たちの熱い息吹が感じられます。甲賀売薬の伝統を受け継ぎ、これからの薬業の発展、そしてくすりを活かした甲賀しかできないまちづくりに繋がっていきます。



▲くすり学習館内に展示されている用具類

ゲンノショウコ



センブリ



ヨモギ



ドクダミ



◆**地場産業となったくすり**
甲賀市は県内でも多くの製薬企業が集まるくすりのまち。なぜ甲賀がくすりのまちになったのか、その歴史をひもときながら、くすりを活かしたまちづくりについて考えます。

◆**甲賀売薬のルーツとその歴史**
自然豊かで温暖な地、甲賀は古くから薬草の宝庫でした。野山には今も腹痛に効くゲンノショウコやセンブリ、傷薬にもなったヨモギやドクダミなどがいたるところに生えています。(上の写真)

戦国時代に活躍した甲賀忍者たちは、薬草で作った腹薬や傷薬を持ち歩き、自らの健康にも役立てたと言われています。さて、くすりのルーツを考える時、忍者とともに忘れてはならないのが、飯道山で修行した山伏たちです。山々を行き来する山伏たちは、山野に自生する薬草に通じ、忍者も山伏からくすりの知識を受け継いだのではないのでしょうか。山伏たちは神社やお寺に仕え、お札を配る一方で、土産物としてくすりを授けたと伝わっています。

忍者のルーツとされる山伏▼



にくすりを売り始めました。山伏から売薬人に転業したのです。明治20年代になると甲賀町渚の渡辺詮吾という人物が薬業発展のために組合を起こし、多くの人材を育成して甲賀売薬の基礎を築き、また製薬会社も相ついで設立されていきました。

過食や腹痛に
効果があるテリアカの薬▼



▲甲賀の配置売薬
(写真の中央が薬の原料を粉にするために用いる「薬研」)



◆**甲賀に残る数々のくすり用具**
機械化される以前、くすりは手作業で製造されていました。薬研で原料を粉にし、乳鉢ですり潰し、製丸機で丸めて丸薬の製造を行い、また貝殻に詰めたテリアカという懐中薬を作り、袋詰めは主に女性が担っていました。

こうして製造されたくすりは行李に詰められ風呂敷に包んで、全国に売り歩かれたのです。一軒一軒訪問し、くすりを預け置き、もう一度訪問した時に飲んだくすりの代金をもらうという『配置売薬』で、甲賀売薬は富山や奈良と並んで有名となりました。くすり屋の訪問は薬局が近くない当時、健康へのよき相談相手で、くすりを買えば紙風船が土産としてもらえました。

▲柳を編んで作られた行李

祝



「甲賀売薬の製造・
販売用具」が国の
登録有形民俗文化財に
登録されます!

くすりを活かした
甲賀市らしいまちづくり